

## 地域からの国づくり

活動先：NPO 法人 ふわり

NPO 法人ふわりでの活動内容は、愛フェスというイベントの準備及び当日の運営とあったので、私は実際に活動が始まる前までは、自分たちにはできることはイベント当日に多くの人に来てくれるように情報宣伝をし、当日は来場者が会場で迷ったりした時の案内役くらいだと考えていた。しかし、実際に活動が始まると活動に行った四人全員が責任のある役割を任され、当初考えていた活動内容とはかなり違っていった。私は、知多地域のイベントでは、音楽・ダンス部門及び NPO 出展担当と、当日の本部・受付業務管理ディレクターという役割をいただき、愛フェスでは、飲食エリアの本部業務の準備及び当日の運営をさせていただいた。

活動内容を詳しく振り返ると、知多地域のイベントでは、準備段階で全体打ち合わせ、音楽・ダンス部門の出場者の方と NPO 出展をする団体への連絡や質問に対する対応、業者の方との音楽・ダンス部門のステージ進行の打ち合わせ、当日の会場の案内板や飾り付け等の作成等を行い、当日は会場の飾り付け、本部・受付でのスタッフ・来場者への対応、飲食チケットの販売、片付け等を行った。愛フェスでは、準備段階で飾り付けの準備、その他必要物の作成を行い、当日は飲食エリア本部の準備、飲食チケット・グッズの販売、片付け等を行った。これらの事をサービスラーニングの活動で行ったが、どれも初めてやることばかりで戸惑いや不安が多く迷惑をかけることもあったが、普段では経験できないようなことばかりだったので、気づくことが多々あり、この一年間で大きく成長できた。

まず、今回の活動を通して痛感したことに社会でのマナー・礼儀が自分にはまだまだ備わっていないということがある。活動していく中で今まで正しいと思っていたことが違っていたり、社会では当たり前なのが全然できていなかったりしていた。例えば、音楽・ダンス部門出場者や NPO 出展をする方との電話連絡をするときに、電話をかける際のマナーが欠如していた。出場者の方に電話をして、留守番電話に繋がったときに何もメッセージを残さず、後に電話をかけなおすということは何回もしてしまったが、相手は着信履歴を見て知らない番号から何度もかかってきているのでいたずらだと思っていたということがあった。私は今まで留守番電話にメッセージを残すことをあまりしてこず、繋がらなかった時は相手から折り返し連絡があるか、なかなか連絡がこなければこちらからまた連絡をするという手段をとっていたが、それは相手がこちらの電話番号を知っているならいいが、知らない番号から何度も電話があればいたずらや迷惑電話だと思われるのが当然だということに指摘されてから気づいた。他にも、今回は多くの方と関わる中で名刺が必要であると感じた。学生だから名刺を持っていなくても当たり前だという考えも最初はあったが、組織の一員として活動をさせていただいていたので学生だからという考えは色々な場面で甘えでしかないと感じた。また、メールの送り方でも、マナーを学んではいたが、やりとりをしていく中でルールや礼儀に気づかされるが多々あった。

活動をしていて気付いたことは他にもある。まず、経験することの大切さである。上記で述べたように、今回は初めてやることばかりで最初は戸惑いや不安ばかりで余裕がない

状態だった。しかし、次第にやることにも慣れてきて何度も活動をしていくうちに手際が良くなっていき、何が分からないのか、どうすればいいのかということも分かってきて、まわりを見ることができるようになったし楽しむ余裕がでてきた。何事も経験を積み重ねることで自分が成長できるということを強く感じた。

次に感じたこととして、情報共有することの大切さが挙げられる。今回は活動に行った四人がそれぞれ違うことをやっていたが、お互いに知っておかなければならないこともあった。しかし、うまく情報を共有できていなかったために無駄な事をしていることがあった。また、イベントの運営に携わっている人全員が情報を共有することも大切だと分かった。半田の知多地域のイベントでは、うまく情報共有できていたことでみんなの一つのイベントを作り上げていることが実感でき、充実感、達成感を強く感じられたが、愛フェスの方では情報共有ができていなかったために、エリアごとには一体感があるが全体としては一体感がなく、いくつかの単独のイベントを同じ場所でやっているだけという感じがして、充実感、達成感は薄くもやもやしたものが残った。なので、情報共有がいかに大切かということがよく分かった。

私は今回の活動で、活動する前と比べて視野が広がった。今回の活動は、利用者の方と直接関わるのではなく、利用者の方や地域の方にとって住みよいまちづくりをしていくものであった。私は利用者の方と関わるのが福祉の要素では大きなウェイトを占めていると考えていたが、そのまわりの環境を整えることが直接関わることと同様におおきなことだと感じた。福祉の領域は広いということは講義でよく言われるが、それを実際に感じる事ができた。また、活動していく中で、以前よりも積極的になることができた。NPOの方以外にも多くの社会人の方と関わることで、自分の意見を持つことの大切さや、人とのつながりの大切さが分かり、自分が動くことで多くの事を得ることができると感じた。以上のような二点が今回の活動で自分が特に成長したことである。

また、活動をしていく中で地域福祉及び社会の課題も見えてきた。簡単に言うとより多くの人を巻き込んでいく必要があるということである。ふわりの理念にインクルージョン・スパイラルというものがある。これは、組織の中だけでかたまらず、他の団体や地域住民もミッションに参加し、渦巻きのように展開していくというものである。私はこのことにより、地域社会がより発展性のあるものになっていくと考える。なぜかというと、地域住民も参加することでNPOの存在を知ってもらうことができるし、地域のニーズも分かってくるからである。そして見えてきたニーズに対して働きかけていくことで、住んでいる人たちにとってよりよい地域となっていくし、国や官僚に任せっきりでない地域住民が作り上げる社会ができる。このことをするためには、まずNPOの存在を知ってもらうことが必要になる。そのためにはまずNPO同士が意見交換をしたりして、表面上ではなく深い関わりを持つことが必要である。そして、それを地域に伝えることで福祉に関わりがない人たちも巻き込んでいくようにすることができ、地域が活性化し、国も活性化すると私は考える。なので、地域からの国づくりをしていけるような地域社会をつくるのが地域福祉及び社会の課題であると活動を通して考えた。

今回の活動で多くの貴重な体験をすることができた。今後は活動を通して学んだことを生かし、地域からの国づくりができるように学びを深めていきたいと感じた。